

令和7年度 自己点検・評価結果報告書【国際】

推進責任者：グローバル推進機構長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
グローバル化の達成状況	(1) 日本人学生の海外派遣を拡大すること	英語力基準を満たす学生数の割合を確認する。	【別添1】 ・英語力基準を満たす学生の割合（令和6年度実績） ・令和6年度オンライン英語教材登録者数 ・令和6年度TOEIC IP実施状況	適切である 理由：令和6年度の英語力基準を満たした学生の割合は7.13%（697人／9,782人）であり、目標値である7%を上回った。学生の英語力強化を目的として、前年度に引き続きオンライン英語教材を提供したほか、令和6年度から開始された「英語e」では、単位取得に原則2回のTOEIC-IPテストの受験が必須となった。この結果、多くの学生が2回受験するようになり、TOEIC IPテストの1年生受験率は令和5年度までと比べて大幅に向上した。
		日本人学生の海外渡航経験者数の割合を確認する。	【別添2】 ・日本人学生の海外渡航経験者数の割合（令和6年度実績）	適切である 理由：令和6年度の日本人学生の海外渡航経験者数の割合が6.0%（586人/9,782人）であり、目標値5%を上回った。
	(2-1) 優秀な外国人学生を増加させること	外国人正規学生数の割合を確認する。	【別添3】 ・令和6年度外国人留学生数（正規生・通年） ・令和6年度留学フェア等参加実績	適切である 理由：令和6年度の外国人正規学生数が454人であり、目標値398人を上回った。
	(2-2) 英語のみで卒業可能な学部コースを新たに設置すること	英語のみで卒業可能な学部コースの設置に向けた状況を確認する。	【別添4】 ・令和6年度第3回新学環設置準備室会議議事メモ（R6.6.27）、第7回新学環設置準備室会議議事メモ及び資料抜粋（R7.1.23）	適切である 理由：令和8年4月に設置される共創学環に英語のみで卒業できる教育プログラムが展開される予定である。

(2-3) 海外ネットワークを強化、拡大すること	海外同窓会支部の設置に向けた状況を確認する。	【別添5】 ・台湾同窓会に係る広報記事（本学ウェブサイト） ・熊本大学リエゾン・プロフェッサー管理台帳	適切である 理由：令和6年度に台湾同窓会を設置した。加えて、国際ネットワークの構築・強化のため、リエゾン・プロフェッサーとして新たに4名に称号付与を行った。
(3-1) ジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)を新たに設置すること	ジョイント・ディグリー・プログラムの設置に向けた状況を確認する。	【別添6】 ・ジョイント・ディグリー・プログラムに関する会議記録（R6.2.6）	適切である 理由：医学教育部において、ジョイント・ディグリー・プログラムの設置に向けた準備をタイ・マヒドン大学と進めている。
(3-2) ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)による交流学生数を増加させること	ダブル・ディグリー・プログラムによる交流学生数を確認する。	【別添7】 ・ダブル・ディグリー・プログラムによる交流状況一覧	適切でない 理由：令和6年度のDDPによる交流学生数は12人であり、目標値である14人には達しなかった。

2.結果総括

【優れた点】	「日本人学生の海外派遣の拡大」「優秀な外国人学生の増加」「海外ネットワークの強化・拡大」については、令和6年度において目標値を達成した。
【改善を要する点】	「ダブル・ディグリー・プログラム（DDP）」による交流学生数は目標値に達していない。本学からのDDP学生派遣を増加させるため、今後、学内での周知の強化や奨学金等の経済的支援の充実を検討する必要がある。